

「建設局が抱える主な経営課題とその解決策について」

渡 瀬 誠

はじめに

建設局は、道路・橋梁・河川・下水道・公園といった膨大な都市基盤施設のストックを有しており、施設を適切に維持・管理し、既存施設を効果的・効率的に活用しつつ、震災・風水害などに備えた都市基盤の機能拡充を行うことにより、安全・安心で快適な市民生活、活力あふれる都市活動を支える都市空間の実現を目指すことが建設局の使命である。

以下、この使命を実現する上での課題を3つに絞って述べていく。

1 持続可能な都市を支える都市基盤施設の計画的な維持管理、

及び震災・風水害などに備えた機能拡充

大阪市は古くから都市化が進んだため、道路、橋梁、河川、下水道、公園など都市基盤施設の高齢化が進んでいる。これらは安全・安心な市民生活や都市活動を支える基本的な基盤であり、計画的な管理を行い、その機能を着実に維持していくことが求められている。一方で予算的制約の中、都市基盤施設の機能低下を招かないよう、適切かつ効率的に維持管理を行う必要があることから、「定期的な点検」により「状態を把握」し、施設の重要度に応じて設定した「管理水準」により着実に維持していくことが基本である。

また、市民の生命・財産を守り都市のBCPを実現するため、南海トラフ巨大地震対策や、近年多発している集中豪雨に対する浸水対策など、震災・風水害に備えた都市基盤施設の機能拡充を行い、震災対策・風水害対策を行うことが必要である。

具体には、南海トラフ巨大地震対策については、既存構造物の災害に対する照査を行い必要な対策を着実に実施していくことにより、都市のBCP上重要である橋梁等都市基盤施設の災害時の機能維持を着実に行っていきたい。都市基盤施設の風水害対策については、浸水被害の軽減を図るため地域特性にあった浸水対策を行うことにより、近年多発する短時間集中豪雨への対応を行っていきたい。

最近の災害は甚大さが増してきており、復旧が長期にわたることや発災後は職員、資機材等が限られた状況に置かれることなどを想定した、都市の機能維持を目指した局の行動計画として局BCPの策定にも取り組みたい。

2 都市の活力強化に資する賑わい創出・観光拠点整備による都市魅力の向上

大阪市の都市魅力の向上に向け建設局としては、御堂筋の道路空間再編に向けた取り組

みや、観光資源に資する歴史的建築物周辺道路の景観整備、大阪を代表する公園施設の改修、水辺の魅力向上、民間活力の活用などにより、それぞれの施設が持つストック、ポテンシャルを十分に活かし、だれもが住み・働き・訪れたくなる魅力・環境の創造を関係部局区・機関と連携しながら行っていきたい。

具体には、公民により今年度策定された御堂筋将来ビジョンでは「車重視から人重視の道路へ」という方向性が示され、道路空間再編に取り組むこととなっているが、特に、歩行者や自転車が輻輳する一方で外国人観光客が増加している道頓堀～千日前通間において道路空間の再編を行うとともに、引き続き長堀通までの道路空間再編についても取り組んでいきたい。併せて、拡張された道路空間を活用した賑わいの創出について、協働の視点から沿道地権者やまちづくり団体等とともに取り組んでいきたい。

また、観光拠点づくりに資する船場地区の歴史的・文化的な建築資源を活かすため、道修町通等において沿道の企業等とともに無電柱化、周辺景観と調和した道路整備を実施するとともに、御堂筋周辺等において民間による周辺景観と調和した道路整備について推進したい。

道頓堀川ではこれまで水辺空間の整備を行い、多くの来街者を獲得するなど都市の魅力向上に寄与してきたが、さらに東横堀川をはじめとした河川沿川における都市魅力の向上に取り組んでいきたい。

動物園や大規模公園においては、大都市大阪に相応しい魅力あふれる空間とするためソフト、ハード両面での取り組みを行う必要がある。具体には、民間ノウハウの導入を含む利用者に対するサービスの充実を図る一方で、民間進出を促すためのハード面の改修を行うなど、公民それぞれの長所を生かし都市魅力向上について取り組んでいきたい。

3 都市の成長に必要な淀川左岸線2期事業や鉄道交差事業の推進による交通の円滑化

国際コンテナ戦略港湾である阪神港とインターチェンジ周辺に立地する物流拠点間での物流交通の円滑化や将来のIRの立地に伴う関西の国際競争力強化、都市における円滑な交通の確保のため近畿圏の広域道路ネットワークの強化は積年の課題であり、ミッシングリンクの解消に資する淀川左岸線2期事業は大阪都市圏全体にとっても重要な事業である。一方で、左岸線2期事業は堤防内にトンネル構造物を構築する難易度が高い事業であり、防災上の観点からは工期短縮・早期の完成が求められている事業でもある。

また、開かずの踏切は全国で約600箇所、そのうち27箇所が大阪市に存在しており、都市内の交通の円滑化にとってその解消が課題となっている。現在事業中の阪急電鉄京都線・千里線連続立体交差事業やJR東海道線支線地下化事業は交通の円滑化はもちろん、都市の活性化に資する事業であり、着実に実施していくことが必要である。

これらの事業は多額な事業費を要する事業であり、事業費の確保が事業進捗に大きな影

響を与えることから、新規制度の創設に向けた取り組みや既存制度の重点化などを通じ、事業費の確実な確保に取り組んでいきたい。

これら解決策を実現するための横断的な取り組みの推進

これまで述べてきた3つの課題の解決策をはじめ、冒頭に述べた建設局の使命に沿った施策を限られた予算内で実施していくために、中長期的に経営的観点から事業を整理しバランスがとれ安定した整備、改修、維持管理を目指したい。また、現場を含め人員が減少している中、これまで蓄積されたノウハウの継承や業務の効果的・効率的な実施の有効な手段として ICT や民間技術を積極的に活用していきたい。

建設局は道路・橋梁・河川、下水道、公園の各部門が統合された局であり、膨大な都市基盤施設を一元的に管理している強みを活かす観点から局の各分野が効果的に連携した一体的な局運営に取り組みたい。

さらに、行政課題の複雑化や市民の行政へのニーズの高度・多様化から、建設局だけでは実現できない施策が多くなってきており、これまで以上に他局区・機関との連携を意識するとともに、膨大な都市基盤施設を管理する部局として、これまでの着実性と局の強みを活かしたまちの活性化・魅力アップの両立に積極的に取り組む建設局としたい。